



# Japonlardan körfez için araç

Türk ve Japon endüstriyel tasarım öğrencileri, İzmir için çevreci, film seyredilebilen, su altı zenginliğinin izlendiği birbirinden farklı deniz araçları tasarlıyor.

İzmir Ekonomi Üniversitesi (İEÜ) ile Japonya Shizouka Kültür ve Sanat Üniversitesi işbirliğiyle gerçekleştirilen, "İzmir için Ulaşım - Tasarım Atölyeleri- Merutu" başlıklı çalıştay kapsamında

kentin tarihi ve doğal dokularını dikkate alan öğrenciler, geleceğin deniz araçlarını hazırlıyor. İEÜ Mütevelli Heyet Başkanı Ekrem Demirtaş ve İEÜ Rektörü Prof. Dr. Oğuz Esen'in de katıldığı çalışmalarda, öğrenciler kentin **turizm** potansiyelini arttırmayı hedefliyor.

İEÜ Güzel Sanatlar ve Tasarım Fakültesi Endüstriyel Tasarım Bölüm Başkanı Yrd. Doç. Dr. Can

Özcan, Japonya'dan 11 öğrenci ve öğretim üyesi ile Suzuki Tasarım Direktörlerinden Moriyoshi Hattori'nin katıldığı belirterek, "Türk ve Japon öğrencilerimiz gruplar oluşturarak, İzmir'e özgü hayallerindeki tasarımlar için çalışıyor. Kentin ihtiyaçlarını dikkate alan tasarımlar yaparak, İzmir'in deniz ile bağını güçlendirmeyi hedefliyorlar" dedi. ■ İZMİR

イズミル経済大学との交流（トルコの新聞に掲載）

## 学長特別研究実績報告書

### 専門科目への英語教育導入に関する研究

#### 目的・概要

静岡文化芸術大学の国際的人材教育の充実を図るため、「専門科目に対しての実践的な英語教育プログラムの開発と学習ツール（教科書）の作成を行った。まず、国内外における同事例の調査を行うとともに、学内において専門科目への英語プログラム導入を試行した。これをもとに、海外の大学とのコラボレーションプログラムを実施し、この事前英語教育において教材実験を行い、専門英語教育に必要なデザイン英語テキストを作成した。

#### 期間

平成 24年 4月 1日～平成27年 3月31日

#### 研究担当者

高山靖子、古瀬敏、宮田圭介、峯郁郎、服部守悦、亀井暁子、Mark Sheehan、Jack Ryan、Edward Sarich、高瀬奈美

#### スケジュール

H24.4～H25.3 両学部コラボレーションデザインプログラムの試行  
国際会議において研究発表（ACE 2012）

H25.4～H26.3	両学部コラボレーションデザインプログラムの試行(外国人デザイナー講師 召喚) 国際会議において研究発表（DRS2013, IASDR 2013） 大学調査・情報交換（Washington/USA, Oslo/Norway, Singapor, Izmir/Turkey,日本） 海外大学(トルコ) とのコラボレーションプログラム実験 デザイン英語テキスト素材実験
H26.4～H27.3	両学部コラボレーションデザインプログラムの試行(外国人デザイナー講師 召喚) 国際会議において研究発表（IASDR 2013） 大学調査・交流（日本,台湾,トルコ） 海外(トルコ) 大学とのコラボレーションプログラム実験 デザイン英語テキスト作成(テキスト使用実験)
H27.4～	海外(トルコ) 大学とのコラボレーションプログラム デザイン英語テキスト作成

#### 研究成果

本研究で開発した専門科目への英語教育導入のための実験プログラムは、デザイン学部と文化政策学部学生の共同プログラムとしており、特徴的な学部構成となっている本学の人材育成のあり方の一つを示した。このプログラムでは、外国人デザイナーとの実践的なコミュニケーションによって英語学習の必要性に対する理解を促し、学習へのインセンティブを高めることができた。

また、その手法と成果についてデザイン系国際会議等で論文発表を行うことによって、海外の大学とのコラボレーションプログラム開発へとつなげ、本学教育のグローバル化に貢献した。このプログラムでは、デザインを軸に地域のグローバル産業の支援を受け、産学共同国際ワークショップとしたことにより、本学と地域の特徴を生かした独自のプログラムとなった。

さらに、開発したプログラムを実行するための英語学習ツールとして、デザインに特化した英語テキストを作成した。グローバル企業出身の実務家教員の多いデザイン学部とネイティブスピーカーの所属する文化政策学部教員の協働により作成し、デザイン開発業務に関わる場面において活用できる内容とした。（平成28年春出版予定）

#### 今後の研究成果の還元方法

これまでに、本研究で行ってきたプログラムとその成果について論文発表を行ってきたが、今後も発展的にプログラムを行う予定であるため、これまでの成果を基にその手法についても継続的に実験を行い、この内容や成果について論文発表等を通じて情報発信を行う。また、作成したデザイン英語テキストは、平成28年春に出版予定であり、デザイン系に限らず特徴的な英語学習テキストとして様々な大学で活用されるほか、グローバル企業で活躍するデザイナーの英語教育ツールとしてもおおいに貢献できると考える。